

四條畷市総合教育会議（令和3年度第2回）

会議録

四 條 畷 市

1 令和4年3月30日 午後1時00分 四條畷市役所委員会室において、四條畷市総合教育会議を開催する。

2 出席者

市	長	東 修平
教 育	長	植田 篤司
教育長職務代理者		山本博資
教 育 委 員		佃 千春
教 育 委 員		河田 文
教 育 委 員		尾崎靖二

3 事務局出席者

総 合 政 策 部 長	西尾 佳岐
兼 魅 力 創 造 室 長	
教 育 部 長	阪本武郎
総 合 政 策 部 次 長	木下順代
兼 秘 書 政 策 課 長	
教 育 部 次 長	木村 実
兼 学 校 教 育 課 長	
教 育 総 務 課 長	板谷ひと美
教 育 総 務 課 主 任	木邨勇貴
秘 書 政 策 課 主 査	安田直由

4 会議録作成者

秘書政策課課長代理	松木田 智美
-----------	--------

5 案件

- (1) 令和3年度における学校教育について
- (2) 教育振興基本計画の策定について
- (3) その他

<p>総合政策部長兼 魅力創造室長</p>	<p>それでは定刻少し前ではございますが、皆さまお揃いですので、令和3年度第2回四條畷市総合教育会議を開催させていただきます。本日は、全員のご出席をいただいております。</p> <p>本日の案件につきましては、次第に記載しておりますとおり、1番めに令和3年度における学校教育について、2番めに教育振興基本計画の策定について、市長と教育委員会で報告や意見交換を行うため、お集りいただきました。本日も、円滑な会議の進行にご協力をお願い申し上げます。</p> <p>なお、会議録作成のため、録音をさせていただきますので、お手元にごございますマイクをお使いいただき、ご発言をいただけますようよろしくお願いいたします。それでは、はじめに、市長から挨拶を申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>皆さま、こんにちは。本日も公私なにかとお忙しい中にもかかわらずお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>今年度末ですので、一年振り返ってみますと、春先から臨時休業であったり、学校現場におかれましては、さまざま大変だったかと思えます。</p> <p>とりわけ、いわゆる第6波というのが、比較的若年層の方を中心に感染拡大という中で、教育委員会のみなさん、事務局のみなさんを含め、さまざまなきめ細やかな対応をいただきましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>さて、振り返りますと、前は10月に総合教育会議を実施させていただきました。その際には、本日の次第の(2)にもなっております教育振興基本計画の素案について意見交換をさせていただきました。本日は、令和3年度における学校教育に関するご報告、そして次第の(2)として教育振興基本計画の策定についてご報告をいただけると伺っております。限られた時間ではございますが、有意義な意見交換となりますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますが挨拶にかえさせていただきます。宜しくお願いいたします。</p>
<p>総合政策部長兼 魅力創造室長</p> <p>市長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、市長、以降の会議の進行をよろしく申し上げます</p> <p>それではお手元の次第にしたがいまして進めてまいります。</p> <p>まず、次第(1)令和3年度における学校教育について、担当からご説明をお願いしたいと思います。</p>

教育部次長兼学校
教育課長

はい、失礼いたします。令和3年度における学校教育についてスライドを準備いたしましたので、スライドを見ながらご説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

コロナ禍における教育活動、いま市長からもございましたように、令和2年度に引き続き、令和3年度も学校への手洗いの徹底、消毒やコロナの対策を依頼して、学校から保護者に対して家庭での感染予防をお願いしたところです。そのようななか、今年度1学期、2学期、3学期と枠の中に書かせていただいた大きな流れを作らせていただいております。具体的に学校での様子をお伝えさせていただけたらと思っております。

まず、コロナ禍における学校での感染予防対策としましては、昨年度に引き続き、マスク着用、手指や教室の消毒、密集を避けるなどです。学校では玄関や教室、またはトイレなど、いろいろな所に消毒液やせっけんを置き、手洗いやうがいを呼びかけ、廊下などにポスターを貼りました。

また、発熱や症状がある場合につきましては登校を控えるよう保護者をお願いしております。あわせて、感染した児童生徒への対応、人権的な配慮も含めて学校の方には丁寧な指導をお願いしております。

感染予防対策のもう一つはやはり換気です。教室の換気を心がけるよう学校の方に通知させていただきました。夏場、冬場につきましてはエアコンをつけながらの換気ということで、市の方で準備していただいたサーキュレーター、空気清浄機を活用してしっかりと換気をしたうえで教室の環境を整えて、授業をすすめておりました。あわせて、寄贈いただきましたマスクや消毒液、ウェットティッシュ等も配布させていただいたところです。

続きまして、コロナ禍における教育活動ということで、まず今年度、学校の体育館にエアコンの方を設置いたしました。避難所としても使用する学校の体育館が冷暖房完備となり、学校としても本当に快適に過ごせるようになりました。コロナ禍では換気が必要なため、定期的に換気をしつつ、エアコンを使用しています。寒い日も窓やドアを開けられるので、体育館での活動も感染のリスクがかなり軽減されたと考えております。右側の写真は卒業式の練習をしているところになりますが、こちらも扉を開けて実施しておりますが、2月3月の寒い状況の中ですが、扉を開けて実施している状況です。

続きまして、学習者用タブレットPCの使い方ということで、これから説明させていただきます。

まずは、1学期は学習者用タブレットPCでスクールタクトにま

教育部次長兼学校
教育課長

ずは慣れることからスタートしました。

今、画面上は小学2年生の授業風景ですが、ログイン画面でパスワードを入力している画面になります。先生がキーボードの場所を示しながら、パスワードを入力する方法を教えてください。

小学生は初めてタブレットに触れる児童もいますので、まずは電源の入れ方、スクールタクト（授業支援ソフト）の開き方、パスワードを入力することを何回も練習します。最初はパスワードだけを10回ぐらい練習していて、それだけで喜んでいたところからスタートしていますが、今はスムーズにパスワードを入力してログインすることができます。

また、低学年につきましては、まだローマ字も習っていませんので、手書きで直接入力しています。

小学校高学年になりますと、インターネットで調べて、直接手で書いたりとか、入力をしたりとか、その画面を貼ったりとか、調べた内容をまとめて発表するような授業ができるようになりました。また、画面下のタグで画面を切り替えて、他の子どもたちとの意見交換、ノートも自由に見ることが可能となりました。これまでであれば、席を立って友達の様子を見ようと伝えて児童が動いておりましたが、画面で他の子がどんなことを考えているのかということが、一目瞭然で共有することができる、このように調べたり、他の人と共有することがすごく簡単になったことで、授業の幅が大変広がったという状況でございます。

続きまして、中学生の授業についてごらんいただきたいと思います。まずこちら、示させていただいているのが、美術の時間になっています。学習者用タブレットPCを使用して授業が行われています。こちらがスクールタクトで画面を送っている分ですけれども、先生がこちらのもを指して、学習者用タブレットPCに配布して、生徒がこのタブレットで課題に取り組みます。こちらの方で何を描くか決めて、写真を撮り、次は下書きをかけるようにすると指示が入っているので、ここから先生の指示にしたがって進めていって、右上のところに「たいへんよくできました」のスタンプで、先生の評価が入っている状況です。

次に、社会の授業になっております。インターネットで調べ学習をして、図書室に行かなくても、本を貸し借りしなくても、自由に調べることができます。さすがに中学生は両手で入力して、入力も早いです。中学生につきましては、自分の意見をタブレット上でしっかりとまとめて、まず友だちと意見交換して、最後に調べたことを友だちと比較、自分の考えと友達の考えを比較、共有し、最終的に自

教育部次長兼学校
教育課長

分の考えをまとめるといったところの取組みをしているところで
す。

続きまして、学びの継承ということで、主体的・対話的で深い学び
の授業ということになります。小学校3年生の算数なのですが、ス
クールタクト上の画面で自分で考えた、自分の考えを、大型画面で
映し出して、友達みんなに説明している状況です。友だちはどう考
えているのかな、と他の人の考えを参考にして、自分の考えをまと
めたりしています。

続いては班での発表です。班で話し合ったことをスクールタクト
でまとめて、それを見ながら発表している場面でございます。プリ
ントに記入した自分の考えを友だちに説明していたり、また、スク
ールタクトで他の子どもの画面からヒントを探していたり、タブレ
ットとノートを併用して学習しています。実験の考察についてプリ
ントに記入しています。最終的にはこのような形で児童のプリント
がわかるんですけど、結果から深く考えようということで、結果か
ら次の課題を見出したりとか、自分で考えたことをまとめるという
ような学習になっております。

続きまして、今度は家庭学習、自主学習です。タブレットとは離れ
るんですけども、家庭学習の取組みです。

ある学校では、生徒一人ひとりに夢ノートを配布して、放課後の
時間の過ごし方や、自己管理する取組みを行いました。自分で学習
計画を立てて、しっかり学習するということです。ノートについま
しては睡眠時間や課題などを記入して、いつまでに何をすべきかを
自己管理する力を育てる取組みです。これが、夢ノートのコピーで
す。見本となるノートのコピーを廊下に掲示していたり、このノー
ト1冊で自分のスケジュール管理するようになっています。

また、家庭学習、自主学習の取組みについて報告します。廊下に児
童のノートを掲示していますが、学年ごとに掲示して、わくわく（自
分の興味がある内容）、どんどん（テスト勉強、予習復習など）のコー
スがあります。良いノートの例としましては、スーパーノートとし
て、教室や廊下にも掲示されています。自主学習のイメージ作り
に役立ちます。中には先生からの挑戦状ということで、算数の発展
問題が掲示されておりますが、挑戦状という言葉が児童の意欲を掻
き立てることにつながっているのではないかと考えています。

また、先生が「自分だったらこのようにノートをまとめますよ。」
と、いわゆるモデル学習とし、先生が見本を示して、子どもたちに見
本を示して、そういうのも掲示されています。「みんなも家庭学習を
がんばっているの、先生たちも大人の自主学習がんばります。」と

教育部次長兼学校
教育課長

いうことで書いています。

こちらにつきましても観察報告の見本となっております。書きたいと思った児童用に、用紙が自主学BOXに準備されています。

こちらにつきましましては100字ワークといたしまして、カテゴリーにそって100字に自分の考えをまとめる、というような取り組みをずっと続けている学校もございます。

こちらにつきましましては放課後子ども教室のまなび舎の様子です。宿題やテキストをする児童なんですが、2学期あたりからは宿題もタブレットで出す学校も増えてきているので、まなび舎でもタブレットで学習する姿が出てきています。それぞれ自分の課題をする児童、手前は児童が自主的な学習をするためにタブレットで振り返っている状況です。

ここから2学期の様子が変わります。2学期につきましましては、夏休み明けの1週間は遠隔学習の試行期間、さらにその次の週を定着期間として、昼からを授業をカットして、この遠隔授業の練習に充てたところですが、学校では1学期にスクールタクトの練習をしましたが、2学期からはいわゆるオンライン学習、双方向、同時通信の学習準備に入っています。

まず、担任が順番に名前を呼びます。名前を呼ばれたら、返事をしたり手をふったり、合図を送ります。どんどん先生の方から会議を開いて、子どもたちが入室してきているという状況です。教育長はじめ、教育委員会もしっかりとバックアップするため見学に行かせていただいております。こちらにつきましましては、教室は先生一人しかいないのですが、先生が画面に向かって授業をしている様子です。手前のところ、タブレットPCのカメラに向かって先生が授業をして黒板を映しています。また、児童から提出のあったスクールタクトの画面を確認して、こちらのスクリーンでスクールタクトの画面を映して、右側を出席している児童ですが、こんな形で画面を切り替えながら授業をして、先生たちもしっかりと頑張ってくれています。

中学校でも遠隔授業をスタートしています。この学校では先生が二人一組のチームを作って、授業をオンラインでする人、その傍でPC操作をする人に分かれて、チームになって授業が行われています。今、こちらに映っているのは理科の授業です。ホワイトボードに「Teamsでの授業配信、スクールタクトをプリントのように使うこと」のめあてが書かれており、まずは番号を入れて入室をします。理科室で生徒に話しかける先生と生徒の様子になっています。

社会の授業です。奥でもう一人の先生が出席確認をしています。

教育部次長兼学校
教育課長

先生と生徒の画面切り替えなどの操作をしているときもあります。

このようにクラスのみんが画面に写り込みます。顔を出したくない生徒は写さない設定で授業に参加している場合もありますが、中学校からは、自宅といえども授業なのだから、気持ちを切り替えるため制服で参加するようという指示を出していたそうです。

ペアの先生が出席確認をしています。PCの横の番号しか表記できませんので、名前と表記番号を確認して、誰が参加しているのかを確認しています。

続きまして、第6波の3学期のことになりますが、こちらですね、一つの学校につきまして、第6波の最中、オンラインで授業参観をするという取組みがございました。1月28日(金)と2月4日(金)に分けて実施されました。こちらは、5年生の社会の授業になっております。学習者タブレットPCを自宅に置いて、子どもたちは登校し、保護者が自宅から学習者用タブレットPCで授業を覗くというスタイルになっております。こちらでもWeb会議システムを使って授業参観を行っているところです。友達の発表を聞いたりとか、教室の保護者の姿は見えませんが、児童はカメラ越しに参観する保護者を意識して、カメラに向かって発表するような形になっております。

教室の様子を撮影するPCになっております。オンライン参観ができた背景にはGIGAスクール構想が本格実施されたこのセットではありますが、市としてはカメラの配備も含めて準備させていただいたところです。

また、こちらは家庭から授業に参加する児童に話しかける先生です。濃厚接触者であったりとか、陽性者であったりとか、子どもたちが外からも参加していますよと、いわゆるハイブリットな授業を行っている状況です。

こちらは学年の発表ということで、児童の前に、児童の立つ場所にPCの位置などを工夫しながら配信しています。児童がマイクに声を届けること、カメラの方を向くことを意識して発表という形になっています。ここで少し動画を紹介させていただけたらと思っております。

《動画視聴》

まずは端末を出すところからスタートするんですけども、ご覧のようにここに集中しないように工夫しています。にぎやかにやっていますけれども、教室の方に一人ひとりのパーティションを使いな

教育部次長兼学校
教育課長

がら端末を操作しています。なかなかいろんな声がしながら行っているんですけども。

こちらは、インターネットで調べ学習をしている小学3年生ですね。手書きで入力したり、それぞれ自分にあったやり方で学習を進めているところです。

これを支えるために教育委員会といたしましても、先生たちの授業をどういうふうに組み立てられるか、こんなことができるよということで、学校に出向いて、先生達の前でデモを行ってみたり、研修を行っている状況でございます。

いま話をしているのが指導主事になります。そこからスクールタクトということで、こんな形で授業をさせていただいております。

この間、学校行事につきましても、様々な工夫をして学校行事をおこなっております。このような形でマスクをしながらにはなりますが、学校の中での取組みを行っているところです。

また、こちらは運動会の様子になります。運動会も当日の様子なんですけど、密を避けるために、通常であれば保護者席、特に小学校でしたらシートを敷いて、朝から順番待ちをしてという状況がございましたが、今年度のこの学校の運動会の工夫としましては、もうシートは敷かないということで、自分の子どもの出番が来たら、撮影場所が指定されているので、そこに行って、近づいて参観するといった形で、保護者もずっと立っていただき、後ろの方には椅子を用意されている方もいるんですけど、このような工夫をされています。

こちらはリレーなんですけど、このような形で色々な感染症対策を実施して行っています。

そしてこちらが卒業式になります。これは卒業式の予行練習になっています。卒業式といいますと、今まででしたら、5年生と6年生が同時に参加していたんですけど、当日、卒業生と保護者と先生方だけで行いますが、5年生に卒業式の様子を見せたいということもありまして、5年生が予行の時に保護者席に座って、卒業式の練習を見ている状況です。御覧のとおり、子どもたちも椅子の間隔もしっかりと広げて、保護者につきましては上の方からギャラリーとしてご覧いただくという形で、小学校でしたら今まででしたら雑壇みたいなもので子どもたちが見れるようにしていたんですけど、そういったものも取りやめて、このような形で行っています。

教育委員会といたしましても、先生たちの学びを深めるために様々な研修会を行っているところです。また、府の教育センターの力も借りながら、いろんな研修も行っているところです。あわせて今年度やっとコロナの関係で来日できなかったALTの方が全員揃

<p>教育部次長兼学校 教育課長</p>	<p>うことができました。ALTの皆さんを集めて、スクールタクトでどうやって授業を作っていくかという、そんな研修もすすめているところです。また、ジョセフという中心になっている方が、新しいALTに対して授業を見せているというような状況になっています。で、またスクールタクトで共有しています。先生たちもこの間にたくさんの研修をする中で、たくさんのスキルを身に付けてきたんではないかと思っています。</p> <p>最後に、「みんなの学びが叶うまち」ということで、令和3年度に策定した、本市の教育最上位計画、教育振興基本計画の基本理念「みんなの学びか叶うまち～生涯 学び 夢 挑戦」のもと、子どもたちの最善の利益を追求して、今後の取組みを継続して深めてまいりたいと思います。報告は以上です。ご清聴ありがとうございました。</p>
<p>市長</p>	<p>はい、ありがとうございました。ただいまご説明いただいた様々な取組みや内容につきまして、何か教育委員のみなさんから、補足であったり、追加のご意見等はございますでしょうか。では、尾崎委員お願いします。</p>
<p>尾崎委員</p>	<p>四條畷市の学校の中で忍ヶ丘小学校が、カリキュラムマネジメントの府の指定校、これは全国的なもので文科省がやってて、その中で府の指定校になっていますので、そこにおける取組みもちょっとプラスしてご報告を、私の立場からではちょっと変なんですけど、指導に入っておりますのでさせていただきます。</p> <p>カリキュラムマネジメントというのはご存知のように、各教科の領域をまとめながら子どもたちの力・資質・能力を伸ばしていくという、そういう取組みで、これから非常に大事になってくるであろうと言われています。</p> <p>で、忍ヶ丘小学校の6年生で取り組みましたのが、「歴史人物パンフレットづくり」というのを取り組みまして、主には社会科と国語科を統合したような取組みになります。それをタブレット上で、従来でしたら紙ベースで作成するパンフレットですが、タブレット上で作成するというようなことで、まずはインターネット上で情報を子どもたちが集めまして、それをそのままでは切って貼っただけのそういうものになってしまうので、自分の目的に合うように書き換えるという、これが国語の力なんですけれども。だから読み取る、読解して、それを記述するという、その間に自分というもの、目的性をくくって、いわゆるPISA型読解力といわれるようなものなんですけれども、そういう力を発揮して、パンフレットを作っていくと</p>

尾崎委員	<p>いう、そういう取組みをなさいました。とてもよかったです。それは同時にインターネットであるとか、タブレットであるとか、そういうような21世紀に必要とされるツールを使ってやっているという、そこにカリキュラムマネジメントが加わっているという、非常に値打ちのある。これは1年生が3学期に、これは生活科と統合して、国語と統合してやられたんですが、これについては、校内研修のあり方ということで、日本の学校教育の独特のシステムですけれども、校内研修が非常に優れていると海外からも言われていますけれども、実際に、非常にコロナが流行ってしまいましたので、老人である私が参観に行くには申し訳ないと学校が配慮していただいて、Zoomで、私は自宅におりまして授業を。非常にそれが良かったんですね。固定カメラは全体で映していますけれども、先生方がご自分のスマホをお持ちになって、スマホのカメラで子どもたちのノートとか、それぞれのグループを映していただいて、非常に多角的に観ることができまして、その後、反省会は私は自宅から、そのことに基づいてお話をさせていただくと。そうなりますと、非常に遠隔地におられる高名な先生方、指導力のある先生方からお話を聞くことも非常に簡単なものではないかなということをおもひまして、そういった取組みがこの間、新しい取組みとして、教育振興基本計画の中にもカリキュラムマネジメントであるとか、いま申し上げたような新しい学びのスタイルとか含まれておりますが、すでに四條畷の中でもそういう萌芽的な動きがあるということで、ちょっと併せてご報告させていただきます。</p>
市長	<p>事例をご共有いただきありがとうございます。最後におっしゃっていただきましたとおり、端末が手元にありますと、遠隔地とのやりとりが非常にスムーズになりますので、これまであった垣根を飛び越えていけるのだと思います。私もこの間、小中学校は無いですが、他市の高校などで「市長の仕事とはどのようなことなのか話をしてくれないか」など、何度か依頼を受けてオンラインでお話をさせていただきました。同級生たちが他市の高校で教師をしておりますので、連絡を受けて講師を引き受けたりしました。本来であれば、現地に出向いての講話はなかなか難しいのですが、オンラインであれば市長室からでもお話できます。</p> <p>また、ALTの先生の話もありましたが、これからはおそらく国境を越えることさえも容易になっていくのだろうと思います。GIGA端末がこれからますます使いこなされていくと、そういった事例もたくさん出てくるのだろうと思います。ありがとうございます。</p>

市長	<p>その他ご意見等ございますでしょうか。山本教育長職務代理人、お願いいたします。</p>
山本教育長職務代理人	<p>感想めいたものになるんですけど、G I G A端末を利用して授業をするということは、ややもすれば、ツールの使い方を周知していくくらいがあつて、できることといえば知識の伝達が中心になってしまうという危惧があるんですけども、今、本市の授業のやり方を見させてもらったら、結構、集団の力の育成というか、集団を上手くまとめてやっていくということに力点を置かれているし、これには一つには、事務局の指導主事のはじめとする、そういう研修とかを通じての先生方にそういった力をつけてもらったおかげかなというふうには思っています。コロナになって、学びがやっぱり変わっていった。それは本市だけを見ていると、変わって行って、以前と比べて、コロナの中で子どもたちがかわいそうじゃないか、重要な学びができないじゃないか、そういう声もある一方で、見せていただいたら、新しい学びというか、そういうものが徐々に定着しているなど、そういうところを今見させてもらいましたので、すごくこれからG I G Aスクール構想の目的かと思うんですけども、タブレットを利用した形で次の新しい学びが、うちの市の中からでもうまくできるんじゃないかなとそういう感想を持ちました。</p>
市長	<p>ありがとうございます。おっしゃるとおり、導入の際にはあくまでツールということでしたが、ただのツールを越えた新しい学びというものが、少しずつ進みつつあるのだと思います。先ほど木村先生からもお話がありましたが、今後、双方向の授業を進めて行く上では、おそらく学校の通信環境負荷が大変なことになると思われます。同時に双方向に多数の通信をすると、ネット環境に非常に大きな負荷がかかります。確か今回その増強案を教育委員会の方で上げていただいていたと思いますので、今後はやはり学びの環境整備部分への投資が必要となってきます。それが遅れることにより、子どもたちの学びが遅れることがないように、積極的な早め早めの環境整備というものが、新しい学びを進める上では重要となってくるのだと感じています。</p> <p>そのほか、はい、教育長、お願いします。</p>
教育長	<p>今の市長のお話も受けて少し補足させていただきたいと思えます。G I G Aスクール構想というのは、直接操作するタブレットP Cに加え、ネットワーク、ソフトウェア・アプリケーション、これら</p>

教育長	<p>三つの構成要素の組み合わせで達成されるクラウドコンピューティングです。</p> <p>本市の場合には、ソフトウェア・アプリケーションに、スクールタクトを入れているおかげで、協働的な学びが進んでいるのです。GIGAスクール標準仕様にあるオフィススイート、いわゆるワード、エクセル、パワーポイントだけが入っていても、協働的な学びとするには、教員がとてつもない作りこみをしなければなりません。ところが、いまご覧いただいたように、他の子どもたちがどういう考え方、解き方をしているのか一覧でき、お互いの意見を交換、協働して考えをまとめる、これはまさにコラボレイティブな仕掛けそのもので、これは非常に大きな学びの進化です。</p> <p>次に通信環境ですが、いわゆる双方向のWeb会議システムといわれるものでは、一人当たり2Mbps（メガビットパーセカンド）の帯域を要します。これを一斉同時に行いますと、ものすごいインターネットのやりとりをしなければならない。だから本市はいまでもベストエフォートとして最高の値にはなっているのですが、次年度それを10倍に拡張する予定です。</p> <p>さらに、学びの変革という点では協働的な学びに加え、もう一つが個別最適な学びです。これは長年先生方が苦勞されてきたのでわかりだと思いますが、授業中、机間巡視というのをやりますね。子どもたちの様子を見て回り、その子に応じた指導をする、但しこれは人間である以上限界があるわけです。それがコンピュータの仕掛けによって、その子に応じたフィードバックが適宜にできるというのは画期的です。もちろんAIの示すとおりでいいのか？というご意見もありますが、まずはその子のステータスに応じたフィードバックが行えることは、一斉一律授業の革新ととらえられるでしょう。次年度において個別最適な学びと協働的な学び、これらを一体で進めていける仕掛け、仕組み、考え方を、進化的にキャッチアップできると考えています。</p>
市長	<p>ありがとうございます。その他なにか委員の方からご意見等ありますでしょうか。佃委員、お願いいたします。</p>
佃委員	<p>私もこの2年少し、ほとんど学校現場に行かせていただくことがなく、教育委員でありながら児童生徒の様子をほとんど知らなかった。もちろん、報告で聞かせていただいたり、いろいろ共有していただいたりしておりますが。ですので、今の木村次長のプレゼンテーションは大変すばらしく、ああ良かったというか、やっぱり信じて</p>

<p>佃委員</p>	<p>たとおり頑張っておられるんだというのと、やはり先生方がここま でできるようにするためには、たとえ休校の措置があったとしても、 必死で子どもたちと心を繋いでおくという趣旨のもとに頑張ってお られる姿も見えてきて、とても素晴らしいなと思って見せていただ きました。</p> <p>その中で気になるのは、もちろん学校の中でも、この先生は使う、 この先生はちょっと苦手かなとか、またはこの学校はたくさんの先 生がほとんど使っているけれども、この学校はまだまだちょっと一 部の先生だけなのかなとか、そういう格差というか、学校間の差と いうものが、やはりおのずと生まれるのもでありましょうし。で、教 育行政の役目としてはそれをどう小さくするのかというか、そうい うことについて、どう手立てをするのか。やはりいい事例をどう交 流してみんなで共有できるかという仕組みは、教育委員会事務局の 大きな仕事であると思いますので、来年は支援チームが充実すると 聞いていますから、そういったところを中心にもっともっと進展し ていくのではないかなということも期待もしております。</p> <p>いまちらっとみて思ったんですけど、面白いことに子どもたちの 机の上にはスクールタクトと一緒にミニホワイトボードが置いてあ るんですよね。デジタルとアナログをいまちょうど上手に使ってい る時代なのかなと、これはすごくいいところだと思いますし、もう ちょっと突っ込んで言いますと、いまだに緑の黒板の教室とホワイ トボードの教室があるんですよね。こういったあたり。空気清浄機 を使いながら黒板横に置いてある、黒板消しクリーナーがあるって いうのは気になるなとか、たくさん気付きを与えていただいたプレ ゼンテーションでした。本当にありがとうございました。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。教育大綱の五つしか基本方針が無い中 にも、3つめの「教職員が“学び支え合える”学校」というのがありま す。いま佃委員がおっしゃっていただいたとおり、先生方の中にも 当然、得意な方、あまり得意ではない方がおられると思います。子ど もたちの個性を活かそうというなら、やはり先生方の個性も活かし あってほしいと思います。得意な先生とあまり得意ではない先生が、 お互いをカバーしあえるということがうまくいくと、先生たちの個 性も生きてくるのではないかと思います。今後、教職員の皆さんの 働き方、環境整備というところも教育委員会を中心にしっかりと環 境整備を進めていただければと思います。ありがとうございます。 河田委員、なにかご意見等ございますでしょうか。</p>

河田委員	<p>保護者の立場からしても、子どもたちを学校に通わせることも不安な2年間だったんですけれども、先生方、また市からも様々子どもたちの衛生面、環境面にご配慮いただいて、子どもたちが元気に学校に通えるようになってきているっていうことは、保護者として大変ありがたいなと思って感謝しております。</p> <p>それと、私も中学校に子どもがおりますが、なかなか参観日もなかったり、学校に行く機会も減って、子どもたちがどのように学校で過ごしているのかわからなかったんですが、いまビデオを観せていただいて、タブレットが導入からここまでの期間にこんなに発展して使われているっていうことに、ちょっと感動しました。先生方、こうやって授業の形が変わっていくということは、ただでさえ大変なのに、それがましてやコロナ禍の中でこうやってしていただけたことは、本当に大変なご苦労があったのではないかなというふうに思います。</p> <p>あと、観ていて、子どもたちが自分の意見をタブレットに書き込んで、それをみんなで共有するっていうことは、人の意見をきちんと受け入れられる、そういう人間に育っていくのかなっていうふうに思ったことと、あと、手を挙げて一人ひとり意見を言うのではなくて、みんながきちんと授業に参加できるっていうのは、一つの授業にもものすごく厚みが出てきているような感じがして、これからのタブレットの授業の発展がね、もっと進んでいけばいいなというふうに思いました。</p>
市長	<p>ありがとうございます。本当におっしゃるとおりだと私も思います。それでは、各委員からご意見や補足をいただいたなかで、新しい学びというお言葉もいただきましたので、他にご意見がなければ、続いて次第の(2)の新たに策定しました教育振興基本計画についてに移らせていただきたいと思います。では、担当からご説明をお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>令和3年10月14日開催の総合教育会議で素案に対する意見交換をいただきました教育振興基本計画について、令和4年1月の教育委員会定例会での議決を経て、4月から計画期間をスタートすることをご報告申し上げます。</p> <p>10月の総合教育会議以降の流れとして、当日の意見交換でいただきました地域の教育コミュニティづくりや社会教育施設のハード整備について、今後の方向性を示すものとして、既存計画の中で考え方を同じくするものを整理し、分野別計画に位置付けるなど、修</p>

教育総務課長	<p>正を加えさせていただきました。</p> <p>また、子育て支援部局とも再度の意見交換のうえ、就学前教育や子どもたちの放課後支援について、福祉部門の中で方向性を同じくする分野別計画を再整理のうえ、追記を行わせていただきました。</p> <p>そのほか、11月中旬から実施した市民意見公募手続に提出された意見を踏まえ、用語解説の記載を改めるほか、全体調整を図り成案化いたしました。</p> <p>1月の策定以降は、計画の周知・啓発として、広報誌2月号及びホームページへの掲載をはじめ、たくさんの思いを届けてくれた児童生徒に対し、授業支援システムを介し、計画の策定を報告するなどの取組みを進めてまいりました。</p> <p>特に、今回は魅力創造室の協力を得て、子どもたちの夢を親しみやすいイラストへと落とし込み、広報したことにより、学校通信を活用して保護者周知に協力してくれる学校があったり、読みものとして興味をもった市民から問合せを頂いたりといったケースがございました。</p> <p>令和4年度以降におきましては、策定方針に掲げた、「わかりやすく、共感が得られる計画」の実現に向けて、引き続きの周知・啓発に努めるとともに、基本理念に掲げる、「みんなの学びが叶うまち」の着実な推進を趣旨に、進捗管理や効果検証の仕組みづくりを進めてまいります。ご報告は以上のとおりです。</p>
市長	<p>ありがとうございました。ただ今のご説明に対しまして、各委員から補足やご意見などございますでしょうか。</p> <p>よろしいですか。佞委員、お願いいたします。</p>
佞委員	<p>あの、本当に色々な議論を重ねて、その議論の過程もとても楽しく、その議論を進めるにあたって、やはり道しるべとなりましたのはやはり教育大綱が、教育長もおっしゃっていましたが、斬新なもので、躍るようなフレーズがたくさん載っている中で、躍るといのはいい意味で、躍動感のあるフレーズがたくさん残っている中で、それに並行するような教育振興基本計画というものが、やはり半端なものであってはいけないという使命感を持つ中で、やはり木村次長を委員長とする会議の中で、綿密な計画のもとに職員の方、そして児童生徒の意見を反映させたものになったというのは大変誇らしいですし、整ったこのカラーののを見ましても、イメージ図、これ一つあるだけでも校長先生方はお話を広げられるでしょうし、担任の先生も色々なお話ができるでしょうし、という可能性が見えるも</p>

<p>佃委員</p>	<p>のになったということでも、とてもいいなと思います。</p> <p>ただ、これを実際の生きたものにするためには、どの先生も、どの児童生徒も、四條畷市の教育に関わる人は「みんなの学びが叶うまち」っていうこのフレーズが身近になることと、やはり目標の共有化、常に私も言いますが、この目標のために自分は何をやるのか、私事でちゃんと物事を語れるようにならなければならないということは常に肝に銘じてやっていかなければならないと思うので、数年経って、それがどうなのかっていう検証は、それぞれの検証・評価ということだけではなくて、子どもたちからも聞いてみたいなと思いますし、私たちもちゃんと語れるように準備はしたいなと思った次第です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。目標の共有化というのは非常に重要かつ難しい取組みだと思います。策定過程で児童生徒の意見を吸い上げるという、これまでにないような取組みでした。先ほど河田委員からもありましたように、学習用タブレット端末があるおかげで、みんなの思ってる声を集約したり、見える化するということが、かつての紙ベースでの取組みより容易になりました。紙ベースだと集計上の何%と算出できても、個々の意見を可視化することは難しかったですが、今後この教育振興基本計画を生きたものにしていくうえで、やはり児童生徒、現場の先生、保護者の皆さんのお声をどう巻き込んでいくかが難しいところでもあり、重要な事だと思います。これだけのすごく良い教育振興基本計画になったと思いますので、さらなる推進、これは事務局の手腕の見せどころかなと思っています。その他なにかご意見ございますか。山本教育長職務代理人、お願いいたします。</p>
<p>山本教育長職務代理人</p>	<p>あの、私も佃委員と同様の考えなんですけども、これを作成するにつきましては、本当に事務局の皆さんがものすごく熱心に考えていただいたし、子どもたち、若手職員を巻き込んだ形で本当に教育員会の事務局をあげて作っていただいたことに関しては、本当に素晴らしいなと思っています、もう感謝するしかないなと思っています。</p> <p>それで、元になっています教育大綱自身が、「個性をみんなを活かすまち」で、すごく個性を重視して子どもたち、先ほど教育長が言われた個別最適の学びということを観点においてしています。個別最適の学びプラス協働的な学びっていうのが、この教育振興基本計画の原点を支える考えだというふうに思っています。それでその中で、</p>

<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>子どもの学びについては随分と色々と言われますので、それについてはこの場ではちょっと触れないんですけども、やっぱり子どもの学びを支えるのは先生ですので、本市の教員が、本当にこの市の教員であってよかったなと思ってもらえるような計画であり、実際に教育内容っていうのがいるんだなと、本当にこれを読みながら考えを新たにしているところです。</p> <p>だから先ほど市長が言われたように、教員の個性もちゃんと活かせるようなそういう計画でなければならないと私も当然思っておりますし、そういう意味で言うと、教員に全てかかっているなというふうに思います。</p> <p>それで一番気にするところは、教育大綱にはないところの社会教育の部分で、その部分については私も力説したつもりなんですけども、本市では図書館活動は結構一生懸命されていますし、他の市と比べて図書館についてはいろんな思いを市民の皆さんがもっておられるので、そこらあたりが今後は、教育大綱の部分に直接ないだけに教育振興基本計画できっちり、社会教育については、きっちり捉えていかなければならないなと思っています。</p> <p>それともう一つは佃委員が言われましたように、検証をきっちりとしていく必要があるかなと。計画を作って終わりではなくて、その計画を遂行して行って、そういう効果を検証していくとか大事なんで、事務局の方もこれから大変な仕事がついてくると思うんですけど、そういう検証をきっちりとしていきたいと思っています。</p> <p>それと、市長にお願いということになってしまうんですけども、この教育振興基本計画の前提条件がやっぱりあるかなと思います。前提条件は先ほど言いましたG I G Aスクール構想を、新しい学びについては後退することができない。進めていくしかないと思っていますので、それが一つの前提になるでしょうし、もう一つは、教育環境整備ということは、避けて通れない部分としてあるかなと思っています。人は新しくなってきましたけども、建物とか施設、あるいは物については更新しない限り新しくなりませんので、そこらあたりがこの計画を作っていくための前提となるかなと思っていますので、一つは老朽化した学校施設の改修だけでなくステップアップした、この10年くらいには学校の改修がいっぱい求められるかなと思いますし、たちまちでいいですとG I G Aスクール構想でのソフト、あるいは、タブレットの更新ということが、この数年の間には考えていかなければならないと思うので、そういうこところの計画的な予算整備というところをお願いしたいなというふうに思います。以上です。</p>
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。五つしかない教育大綱の基本方針の二つめに「子どもの“やってみたい”が叶う環境」を掲げており、やろうと思える環境の整備は非常に重要なことですし、環境の差異により、やりたいことに挑戦できないということがないようにすることが公教育として基本的な、大切なことかなと思います。</p> <p>ただいま教育長職務代理者がおっしゃられたように、そうした環境整備がますます求められてくると思われれます。</p> <p>本市といたしましても、長きにわたる行財政改革の結果、未来に投資をしていける財政構造になってきておりますので、ぜひ教育委員会の皆さんを中心に、そういった点も踏まえて、どのように投資をしていくのかという観点で積極的な環境整備を考えていただきたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>その他、各委員からご意見、補足がございましたらお願いいたします。河田委員、どうぞ。</p>
<p>河田委員</p>	<p>私が教育委員の仕事に関わる前というのは、やっぱり一人の子どもの親でしたので、この子どものすぐ目の前にある、例えば高校受験である、大学受験であるっていうそういう短いスパンでの目標しか私自身目に入ってこない、頭になかったんですけども、今回この計画を立てるためにいろいろと会議に参加させていただく中で、やっぱり人にとって生涯学び続けていくってということが、どれだけ大変な事かということがよくわかって、でも子どもとの話、いまちょうど、次中学2年生でいよいよ高校受験が差し迫ってきた子どもに対しての働きかけ方ってというのが少し変わってきたかなというふうに感じています。</p> <p>それは、上にも成人になった子どもがいるんですけど、その子に対して話していたことと、またちょっと違う形で下の子とは話ができていくなっている、少し気持ちに余裕ができてきた。それはいつ学びなおしてもいいんだよって、一回だけじゃなくってずっと学び続けることが大事なんだということがよくわかって、こういう話をたくさんの保護者と話をしたいなと、こういうことをいろんな人と話をして伝えていきたいなというふうに今回思って、これがきちんと遂行されて、また長い計画でもあり、途中で見直しもかかってくることでしょうから、しっかり一つ一つ丁寧に進めて、見直しをするにはやはり問題点がたくさん出てきて、そこを改善していくってことも必要でしょうから、そういうことがきちんとできる計画であってほしいなと思ってます。</p>

<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。まさにこの理念が「みんなの学びが叶うまち ～ 生涯 学び 夢 挑戦 ～」と。一番最初にこの理念の説明に来てくださった時に、すごくわかりやすい日本語ですが、書いてあることはなかなか壮大なことが書いてあると思いました。子どもから大人まで「生涯、学び、夢、挑戦」。本当に素晴らしい、まさに理念というにふさわしいものだなと思いました。</p> <p>また、この教育振興基本計画には測定目標を3つ掲げてくださっており、10ページにあります、「将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合」、ここに夢とか挑戦と書いていますが、中学生が66%ということが少し気になります。三人に一人は夢や目標がない状態であるということだと思うので、この教育振興基本計画がアクションとして実行されていくなかで、ここの割合がどう変化していくのか、私としても本当に楽しみにしております。</p> <p>卒業式に出席している時は、小学生が卒業証書を授与される時に、一人ひとり将来の夢を発表するのを聞いて、私は毎回どの職業が何割とずっと記録を取っていたのですが、最近出席できず将来の夢を聞いていません。2、3年後、おそらくは記録を取っていた時期とは全く違う職業を聞けるのではないかなとか、将来の夢と言えるものがあることはいいなと思うので、測定指標が今後どうなっていくのかを楽しみにしているところです。ありがとうございます。</p> <p>何か他に。では尾崎委員、お願いいたします。</p>
<p>尾崎委員</p>	<p>今の測定目標にも関わりますけど、これは長いスパンの子どもたちの成長をその都度その都度みていくという、そういう目標であろうかと思えますけれども、同時に10ページの1行目に書かれていますように、それを支える分野別計画とかアクションプランというのが、これが、我々大人として教育委員会の事務局、あるいは学校がどう取り組むかということで、これについては毎年の点検評価の対象になるかと思えます。こういうことの積み重ねの中で、この測定指標につながっていくんだらうと思えます。その中で特にこの四條畷市で取り組む場合に、私は、学校が何か核となるものを持ってもらえたらなと強く思います。この教育振興基本計画は、私は途中から参加させていただいたんで、よくわかってないところもあるんですが、非常に幅広く、色んなことを考えてお作りになっているなと思えます。その中で例えば施策の方向性という大きなものを出していただいているんですけども、今度はこれを各学校が受け止めていただいて、何か核になるもの、例えば15ページにあります就学前との連携なんかで言いますと、例えばスタートカリキュラムなど、</p>

尾崎委員	<p>どの程度頑張れているのかということなども学校では指標にしてい ただいて、それを頑張っている学校と、あるいはこの一番下にあり ます「読書環境を整備し」とありますことで、図書館を子どもにあつ たものに、ICT環境にあつたものにどう改造していくのか、広さ でいえば学校により格差はあるんですね。非常に広い学校図書館を 持っているところと、なかなか持てないところ。そういうところは ハード面なんで、教育委員会あるいは市長さんにとということもあろ うかと思いますが、しかし中身としてはどう作っていくのか。で、先 ほどの木村次長の報告の中にもありましたが、割合に四條畷市では 100字で15のカテゴリってあるんですが、それを使って説明す ることに取り組んでいる学校が多いんですね。そうすると各学校じ ゃなくて四條畷市でそういうことを取り組んでいるという。何かそ ういう特色を、そのことが目標を支えるということになってくれた ら、とてもいいなというふうに思っています。</p> <p>最近ちょっと聞いたことなんですけど、学びというのは自分の学 びがどんなものなのかっていうことは、自分はどこまで何ができて いるのか、できることはなんなのか、そして次にやりたいことは何 なのかということ抜きにして、それぞれの学びっていうのはないし、 叶うっていうことの実感もないだろうと思うんですね。そこで、 これは教育委員会で議論したんですけれども、振り返りの学習、リ フレクションの学習なんですけど、どう自分が学んできたことが納 得できているのか、あるいは、お友達が言ったことが自分にどう影 響してどんな学びができたのか、次にはこんなことをしたいんだと いう自分の目標、そういうものを持てるという、そういう振り返り 学習を四條畷の学校で進んでいる学校もあるんですね。そういう学 校が、学校の宝といいますか柱といいますか、そういうもので四條 畷全体を引っ張っていってくれたら、というそういう学校に対する 期待も。ここには明記されていないんですけれども、その部分を 学校は頑張っていて、全体にこの教育振興基本計画を支えて いただくという、そういう関係になればいいなと願っております。</p>
市長	<p>おっしゃるとおりだと思います。今後は、やはりこういう教育環 境になってきたなかで、例えば各学校の校長先生に学校全体の経営 というものが求められてくるのだらうと思います。コミュニティス クールという観点からも、いかに地域の人を巻き込むか。学校を核 としてその積み重なりが本市全体の教育、そういうことだと思います。 学校ごとにどのようにやっていくのか、今、尾崎委員がおっしゃ ったとおりだと思います。ありがとうございます。教育長、お願いし</p>

<p>教育長</p>	<p>ます。</p> <p>まさにそれを受けまして、本市では学校経営計画を、全ての公立学校で作成戴いています。これは別途学校教育法で定めている諸々の計画とは別に、学校の特徴を明確化するための経営計画です。これを中心に据え、経営目標を順にカスケード、つまりチームの目標、教職員の目標と連鎖させていくというしくみとしております。ですので、この教育振興基本計画の分野別計画の一つとして、学校経営計画があるというような位置付けでとらえていただければと思います。学校の特徴を発揮できよう公表して、実行・評価というプロセスに還元していければと思っております。</p> <p>なお、せっかくですので、この教育振興基本計画をあえて別の表現をしますと、「ライフキャリア・プランニング」と言ってもいいのではないかと考えております。一生学び続けるということは、キャリアをどのように自分で作り上げていくか、実際に計画して、人生におけるさまざまな役割をどう果たしていくか、ということに他なりません。そういうところをいつも意識しながら日々の学びを見直していくことは、重要であると思っております。だからそういう意味でも、個別最適な学びと、協働的な学びが大きな二つの柱となっておりますけれども、加えていうならば、自律的で自己調整的な学び、この観点も含めた学びが高まっていけば、よりこの教育振興基本計画のめざすところと一致してくるのではないかと・・・そのような期待もございます。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。各委員から様々なご意見をいただいたところです。今回話題としては出てないのですが、教育大綱には、五つある方針の中で、四つめに「福祉と教育の“切れめない”支援」があります。令和4年度から子ども家庭総合支援拠点、本市の子育て総合支援センターを中心に、教育支援センターであったり、各学校と連携して切れめない支援を行っていく。そのうえで本市どうこうというより、日本全体の流れとして、このコロナ禍で毎日学校に通っていない、通えない児童生徒が増えています。これは日本国内全体の事象かと思っております。これらについても、教育振興基本計画の基本方針の2に、ここに施策の方向性としてしっかりと掲げられているところではあるんですけれども、社会的にはヤングケアラーという新しい言葉も出てきたりしています。やはり、全ての児童生徒の学びの保障をどう考えていくのかということは、おそらく教育委員会だけで解決してくことは非常に難しい分野だと思</p>

<p>市長</p>	<p>いますので、今既にやっていただいておりますが、より教育と福祉の切れめない支援によって、すべての児童生徒が安心して教育を受けられるという環境、四條畷で学びを受けてよかったなど、そういうふうな環境づくりに取り組んでいくということも、今後コロナが終わっていく中で重要な視点の一つではないかと考えています。</p> <p>その他ご意見等ございますでしょうか。</p> <p>《意見なし》</p> <p>よろしいでしょうか。もしなければ意見交換は終了といたしまして、最後、次第の（３）その他に移らせていただきますが、委員の方々、事務局からなにかございますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>《意見なし》</p> <p>事務局からは何かございますか。よろしいですか。</p> <p>《意見なし》</p> <p>ほかにその他でご意見が無いようであれば、これで終了とさせていただきますが、よろしいでしょうか。</p> <p>《意見なし》</p> <p>いずれにしても、令和３年度はこれで最後になります。令和３年度も本当にありがとうございました。</p> <p>これをもちまして令和３年度第２回総合教育会議を閉会といたします。ありがとうございました。</p>
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------